

事業所訪問

こんにちは 健保組合です！

有限会社 浦安清運

の巻

一〇〇〇年に一度のグランド世紀末を迎えて今年の夏は九州・沖縄サミットが行われたり、南北朝鮮が歴史的歩み寄りを見せたりと、国際舞台でも多くの話題がありました。

また、最近では噴火や地震、大雨による被害で多くの方々が避難生活を強いられています。文明が発展し、IT革命といわれる情報化が進み外国との距離が飛躍的に短縮された現代でも、逆らうことのできない自然の力に驚愕させられるところで(被災された方々には心からお見舞い申し上げます)。

各地で起こっている災害は、自然が猛威を振るってわれわれ人類に鳴らしている警鐘だとすれば、大事に至る前にもっと真剣に取り組まなければならないことのひとつに環境問題があります。これはそう簡単ではないのですが、まずは身の回りのできることから始めなくてはなりません。

そんななか、今回事業所訪問の三八回目としてお邪魔することとなったのは、浦安市から委託を受けてゴミの収集運搬の中核を担っておられる有限会社浦安清運でした。

公共性のある事業を担う企業としてイニシアチブを

まだまだ残暑が続く九月十一日、この日は朝から局地的に集中豪雨に見舞われるような天候でしたが、私たちは雨にも負けず今回の目的地に車を走らせました。

ご承知のとおり浦安は三方を海と河川に囲まれ、かつては「陸の孤島」とよばれていましたが、漁業権の放棄による昭和三十九年から始まった海面埋め立て事業で市域を約四倍にも広げ、地下鉄東西線やJR京葉線が整備され都市成長率全国一といわれるまでに急速に発展した街です。五十六年に待望の市制が施行され、五十八年に皆さんおなじみの「東京

すが生活習慣の改善が図られ、検査数値も適正範囲に近づいてきた方が増えているのが事実です。

飯田社長にご自身の健康法についてお聞きすると「休肝日をつくるよう保健婦さんに指導されたので、実践している」と健康面にも留意されているようです。

街の美観をコーディネートする多忙な毎日ですが、「責任感と自覚をもって業務を遂行するよう社員教育に努めたい」とお二人がおっしゃったとおり、よい仕事をするには心も体も良好でなければむずかしいと思われまます。そのためにも従業員の方々の健康管理にはこれからも細やかなご配慮をと、お願いしました。

業務柄、休日は日曜日のみということが、加納専務は「社員には申し訳ない」と腐心されておられるようでしたが、われわれ一人ひとりが、ゴミに対する認識を変えれば、ゴミの出ない日をつくるのも可能？ ではないのでしょうか。

市のゴミ行政は浦安清運の双肩に

社員の皆さんが実際に勤務されておられるのは東京ディズニールランドパークに近い埋め立て地にある「浦安市クリーンセンター」です。この



▲飯田社長(左)と加納専務

ディズニールランド」がオープンして、その名を全国区に押し上げたことはいうまでもありません。

お邪魔した浦安清運の本社は東西線浦安駅のそばにあり、「こんにちは健保組合です」と事務室を訪ねると、飯田社長と加納専務が、ご多忙のなか、取材にお付き合いくださいました。

初めに同社の歴史や業務内容についてお聞きしました。

設立は昭和四十八年とのこと、前述した海面埋め立て事業が始まり、もともとは漁業を営んでおられた現社長と現専務の先代が漁業権を全面放棄して会社を興され、浦安市の委託業者としてゴミの収集運搬を

施設は周辺地域の環境保全と公害防止にも配慮して建設されたもので、ゴミ焼却で発生した熱を最大限に近隣へ活用しているところも、セールスポイントです。

これからは、ゴミが人知れずどこかで処理されるのではなく、自らが出したゴミへの責任を感じながら共生することが理想ではないでしょうか。浦安市のゴミ行政の行方も、浦安清運の双肩にあるといっても過言ではないと感じたところでした。

こうして、今までの取材経験のなかで初めてゴミ行政の一端をお聞きすることができた今回の取材を終えました。取材にご協力いただいた皆さん、ほんとうにありがとうございます。

◇ ◇ ◇ 今日お邪魔した事業所は、街を美化する事業を営まれておりました。環境問題は地球規模で取り組む大き

始められたそうです。街の急激な発展とともに膨らんだ人口は現在約一三万人で、そこから出される一般家庭ゴミは一日約一三〇トンにもなり、これを市から委託を受けている他の二社と地域分けをし、収集されているそうです。

皆さんがお住まいの街も同様かと思いますが、浦安市でもゴミを細かく分別して収集しているそうです。この分別もペットボトルが普及してから加速度を増したようですが、資源ゴミを上手にリサイクルすることが環境問題の解決につながる第一歩なのです。

環境問題に取り組む企業として同社は、トラックの燃料を軽油から地球に優しいCNG(天然ガス)に変えるため、車の入れ替えも積極的にいう方針ですが、新しい燃料を充填するためのターミナルが少なく、苦慮されておられるそうです。

リサイクル品はまだコストが高み、消費者はわかっても安いものを購入する傾向にあるようですし、環境に優しいエネルギーの供給場所が不足して利用したくても物理的に難しいこともあるのが現状のようです。「もっと積極的な行政支援が必要」と加納専務がおっしゃるように、われわれが抵抗なくリサイクル品へ手が伸びるような施策が

なプロジェクトですが、一人ひとりが心して取り組まなければ絵に描いた餅になってしまいます。

折しも、明日(九月十二日)は十五夜です。満月を観ながら、餅ならぬ団子を食べる古来からの習慣と美しい月見ができる環境を二一世紀の子どもたちに引き継いでゆきたいものです。

今世紀最後のオリンピックが幕を開けました。スポーツをとおしての感動を心に刻んで、二一世紀を迎えましょう。

毎年実施する従業員の検診に加え、産業医による個別指導も

話題は、社員の方々の福利厚生等に移行しました。

同社は毎年、従業員の方々の検診に加え、産業医による個別指導も行っておられます。さらに二年ほど前から、健保連千葉連合会で共同設置している保健婦を活用されて保健指導を実施されています。福利厚生を担当者の熱意で、徐々にではありま



▲ごみ処理施設「浦安市クリーンセンター」